

特集展示のご案内

長崎歴史文化博物館は、2階常設展示室の展示替えを定期的に行っております。
是非、ご取材・情報掲載の程、宜しく願い申し上げます。

特集展示「春うらら—美術の中の春—」

寒い冬を乗り越えて、陽光ふりそそぐ春。春になるとなんだか心がうきうきしてくるものです。そして、それは人間だけではないのかもしれない。木々は美しい花を咲かせ、鳥たちは飛び回り、冬眠していた蛙も目を覚ます—春の喜びは、多くの美術品のモチーフにもなっています。
本展では、そんな「春」をテーマに、長崎の画家たちが描いた花鳥画や、青貝細工、三川内焼といった、長崎にゆかりのある作品16点をご紹介します。



特集展示「春うらら—美術の中の春—」

会 期：2019年3月20日(水)～5月19日(日)
休館日：4月15日(月)
※但し、4月5日(金)はメンテナンス作業のため
8:30～12:00まで閉室
会 場：特集展示室
(2階常設展示室 歴史文化展示ゾーン内)
時 間：8:30～19:00 (最終入館18:30)
※12月～3月までは18:00閉館
観覧料：大人600円、小中高校生300円
※県内小中学生は無料



←鶴亭《海棠綵帯鳥図》
長崎歴史文化博物館蔵

海棠は中国語で「棠」(tang)が「堂」と同じ音のため、一族や父母といった意味を持つ。綵帯鳥は、出世や長寿の意味が込められており、一族の華々しい繁栄を願う吉祥画。



↑長崎青貝細工《桜花文硯箱》
長崎歴史文化博物館蔵

伏彩色(ふせざいしき)技法の完成度もさることながら、箱の立体的な面を巧みに利用した大胆な構図は、見る角度によって全く異なる印象をもたらす。青貝細工の最盛期の作とみられ、美しさ、技術ともに最高レベルの優品。



鄭培筆《百蟲図巻》
長崎歴史文化博物館蔵

